



水野 弘生さん

柏崎市出身。28歳。
R2年に富山からUターン。
家族に教わりながら農業を
始め、現在は独立。

地元で根ざした農業への道

水野さんは、地元柏崎市で農業を始めた新規就農者です。実家が農業を営んでおり、幼少期からほ場で祖父や父母がコンバインを操作する姿を見て育ちました。家業を継ぐ決意を固めて地元に戻り、ニュー農業塾での研修を経て、今年から独立して経営を開始しました。現在は認定新規就農者として活動しています。

枝豆を中心に多様な作物に挑戦

水野さんが主に栽培しているのは枝豆で、品種は「越後ハニー」です。昨年は6〜7月の収量が伸びず苦戦しましたが、今年は雑草の管理の難しさに直面しながらも、1反あたり製品で約500kgの収穫となり、豊作に恵まれました。また、水稲も栽培しており、来年からは大麦や芋類など別の作物にも挑戦する予定。家族や農協、農業普及指導センターに相談しながら、作付け計画を立てています。

農業の魅力とやりがい

水野さんが農業の魅力を感じるのには、自分で育てた作物が日々成長し、種まきから収穫までの一年の営みを自分の目で見届けられるところだと言います。食への関心がある人には、農業の面白さを実感できるかも話します。

新潟県柏崎市



新潟県柏崎市は、豊かな自然に恵まれ、美しい海岸線や山々、そして歴史と文化が息づく地域です。明治時代に石油が噴出したことから、製油会社や機械金属工業が発展し、ものづくりのまちとしても知られています。

一方、大変な点については「稲作は年に一度しかできません。自分があと50年農業を続けると考えると長く感じますが、稲ができるのはたった50回だと思うと、毎年何かしら改善していかなければなりません」と話し、その言葉からは、日々の作業に対する真摯な姿勢が伝わってきました。

一歩を支える支援とつながり

水野さんは、独立後も支援が続くことに心強さを感じています。枝豆部会という学びの場で、水の管理など栽培の基本を教わりながら実践でき、独学だけでは得られない安心感があると語ります。

水野さんからのメッセージ

「地方では後継者が少ないため、若手が来れば地域から歓迎されると感じています。農業に少しでも興味があれば、一歩踏み出しても構いません。」